

地質の日に開催された島原半島ジオツアー

吉田大祐¹⁾

1. はじめに

1990年11月から始まった九州島原半島にある雲仙普賢岳の噴火活動は、終息まで4年8ヶ月の長期におよび、この間に発生した「火砕流」と「土石流」により麓の市や町に多大な被害をもたらしました。雲仙岳災害記念館(愛称:がまだすドーム)は、この噴火災害から目覚しい復興を遂げた長崎県島原市に、3つの目的で設置されました。

- (1) 雲仙普賢岳噴火災害の脅威と教訓を学習・伝承する施設
- (2) 「平成新山フィールドミュージアム(愛称:がんばランド)」のコアミュージアム
- (3) 全国からの支援に対する感謝の気持ちを表す施設

当館には2002年の開館以来これまでに約146万人の来館者があることから、火山や災害への一般市民レベルでの関心の高さを感じます。しかしその一方で、災害意識が薄れつつあるのも事実であり、この災害から我々が得た教訓をきちんと伝承することが大事です。我々は子どもたちに学ばせ、災害に強い地域社会の構築を目指して永く社会に貢献できる施設となるよう、様々な活動を実施しています。また、野外巡検(ジオツアー)の定期的な開催や、各種情報の発信等「島原半島ジオパーク」における中心施設としての役割も担っています。

2. 開催の経緯

「噴火災害の伝承と火山学習・体験型観光を推進する平成新山フィールドミュージアム(愛称:がんばランド)活動」に関連して、開館以来当館では、親子を対象とした火山学習会や普賢岳登山(野外巡検等)を

開催してきました。今回、5月10日の「地質の日」に、平成新山フィールドミュージアム事業の一環として、また島原半島3市で推進している「島原半島ジオパーク」の関連イベントとして、学術的・科学的に非常に見所がある島原半島の地質スポット(ジオサイト)のバスでの巡検(ジオツアー)を企画しました。本企画は、新たな島原半島の魅力の発見を通じて火山や地質並びに防災教育への興味・関心を促し、防災意識の高揚や火山と共存していくための知恵を育むことを目的としています。

3. バスハイキングの内容

当日は10組の親子、総計27名の参加者がありました。対象は小中学生並びにその保護者とし、その中には長崎市からの参加もあり、本イベントへの関心の高さが感じられました。講師はわかりやすい説明で好評の長崎県教育センター主任指導主事(当館の教育ボランティア)の寺井邦久先生が担当されました。



写真1 館内の展示物を使った寺井先生の説明。

1) 雲仙岳災害記念館

855-0879 長崎県島原市平成町1-1

キーワード: 雲仙普賢岳噴火, 島原半島ジオツアー, 親子バスハイキング, 島原半島ジオパーク



写真2 大野木場砂防みらい館職員による砂防堰堤の説明。



写真3 雨の中、大泊玄武岩の溶岩をハンマーで叩き観察する参加者。

まずセミナー室において、私から5月10日が「地質の日」に設定された経緯を参加者に説明しました。続いて寺井先生に「ジオパークを目指して～島原半島を中心に～」というタイトルで島原半島の成り立ちや見所をご講演いただきました。その後、当館の展示物を活用し、寺井先生からより詳しい説明を受けました(写真1)。

寺井先生による解説の後、バスでのジオツアーに出発しました。残念ながら当日は天候に恵まれず、やむなくプログラムを変更し、島原半島に点在する施設巡り中心のコースで実施しました。我々は以前から、雨天でも対応できるようなプログラムも事前に準備し、参加者が十分満足するコース設定を心がけています。幸いにして、島原半島にはジオツアーに必要な魅力的な学習施設が豊富にあります。

当日は館を出発後、眉山^{まゆやま}ロードを周遊し、200年前の島原大変時に出来たといわれる白土湖^{しらち}や平成の噴火で多大な被害を受けた千本木^{せんぼんぎ}地区を車窓から見学しました。その後、垂木^{たるき}台地森林公園にある「平成新山ネイチャーセンター」を見学しました。センターでは、「平成新山の誕生」の過程を映像で学びました。

次に我々が向かったのは、火砕流で被災した「旧大野木場^{おののこば}小学校被災校舎」および、それに隣接する「大野木場砂防^{まのてい}みらい館」です。みらい館では、土石流を防ぐ砂防堰堤^{さぼんげい}について職員の方から詳しいお話をさせていただきました(写真2)。

午前中かなり激しく降っていた雨も午後からは次第に弱まってきました。野外巡検の目的地の一つであ

る島原半島南部の早崎^{はやさき}半島では、傘をさしながらではありましたが玄武岩の溶岩をハンマーで叩き、じっくりと観察することができました。ここでは雲仙火山が活動する遙か以前(約430万年前)の大泊^{おおどまり}玄武岩が分布しており、参加者からは「今回初めて知った!」との感想もありました(写真3)。最後に「雲仙諏訪の池ビジターセンター」を見学し、バスの車窓から「諏訪の池断層」を観察しました。

4. バスハイキングを終えて

今回、このバスハイキングを企画した時にはもっと多く立ち寄りたジオサイトや施設があったのですが、とても一日では周りきれない内容となりました。この為、第2弾のバスハイキングを2008年11月16日に実施しました。

ところで、「島原半島ジオパーク」は2008年10月20日に「日本ジオパーク」の国内第1号の一つに認定され、現在「世界ジオパークネットワーク」への加盟に向けて着々と準備を進めています。雲仙岳災害記念館では、「島原半島ジオパーク」における中心的な施設として、今後もこのようなジオツアーを随時開催し、多くの方に素晴らしい島原半島の地質や自然の魅力に触れあう機会を提供していきたいと思っております。今後とも皆様のご参加を心からお待ちしております。

YOSHIDA Daisuke (2009) : The Geotour around Shimabara Peninsula on Geology Day.

<受付：2008年11月20日>